

# 市史の小径

第2回

## 市史の先輩たち その②

前回は郡役所の動きと密接な関係のあった「甲賀郡志」の刊行までを見ました。昭和になってからは長い戦争の時代に入り、甲賀市では直接的な戦禍は少なかったものの、金属製品の供出でお寺の梵鐘が「出征」を余儀なくされるなど、歴史資料にとっても受難の時代となりました。

大戦後、世の中が落ち着きを取り戻すと、ふるさとの文化への関心が再び高まりを見せます。時あたかも「戦後の大合併」が進み、無くなる村を記録し、新しくできた町の将来を展望する意図をもって、全国各地で市町村史の編さんがはじまります。甲賀市の旧5町でも、昭和30～40年代に全町が特色をもった町史を刊行しています。

このうち水口町志は上下2巻、京都大学の柴田実博士を中心とした当時気鋭の研究者に執筆をゆだねたもので、学術的に高い評価を得ました。また他の4町の町史は、いずれも長く甲賀高校(現水口高校)に奉職され、社会部による郷土研究を指導した芦田博氏が執筆・監修をされており、将来地域を担っていく生徒たちが、編さんに取り組んだところにも価値があります。

出版部数が限られていたことから、水口・甲南・信楽の各町史は後に復刻版が刊行され、また甲賀は近年新たに新版が編さんされるなど、地域の歴史文化に対する人々の強い関心を示しています。

甲賀市で今ひとつ忘れてはならないのが、市内各地とくに旧甲賀町域で立派な「区史」「字史」が、数多く編さんされている

ことです。現在「集落史」と総称されるその特徴は、地元の人々が企画し自ら執筆することから、「自分たちが暮らしていく地域にとって伝えたい大切な歴史は何だろう」という視線でまとめられていることでしょう。集落史編さんが「村おこし」としての意義を持つのも、そこに理由があります。

夏休みのひととき、身近な歴史を語ってくれるものとして、「郡志」「町史」「区史」を一度手にってみませんか。



●力作ぞろいの集落史

【問い合わせ】 総務課市史編さん係  
☎ 86-8075 FAX 86-8380

## 甲賀市水防計画書を策定

6月30日(木)、甲南庁舎特別会議室で、甲賀市防災会議が開催され、甲賀市水防計画書が承認されました。停滞前線や台風による出水時に対し、甲賀市内の土砂災害や河川増水に対する対応が盛り込まれたものです。

市民の皆さんも付近の危険箇所や非常時に対し日常から備えておきましょう。



【問い合わせ】  
総務課 総合防災係  
☎ 65-0665 FAX 63-4554